

から早急に増大を望むことは困難であろう。従て時期的に二、三ヶ月分の滞荷をもつことは避けられぬであろうが、併しこの程度の滞荷は貿易上の常態であつて、戦前のことを思えば量的にも資金的にも言うに足りぬものであり、之が大きく問題となるのは結局企業自体の實力が甚しく貧弱となつてゐることを物語るものと言えよう。斯くて化纖貿易の本格的な発展は世界貿易事情の好転なくして考へられないことになるが、それにしても一刻も早く現在の盲目貿易の障礙を除去することが絶対必要であり、又化学纖維自体の将来性が品質の向上と価格の低下に懸つてゐることを思えば、我國化纖工業に課せられたテーマは愈々困難なものであらう。(大阪支店 藤田)

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

昭和25・4・—

目 次

第一部 総 論

第一章 序 論

第二章 農村経済窮迫の基本的原因

第一節 供米代金流入の減少

第二節 主食閣価格の下落

第三節 価格関係の不利

第四節 営農資金の増大

第五節 過剰人口による重圧

第六節 むすび

第三章 農業協同組合の窮状

第二部 各 論(秋田地方実体調査)

第一章 農民の生活態度、思想

第二章	農村経済窮乏の根本的原因
第三章	農村経済の実情
第四章	農業協同組合の実情
第一節	単位農業協同組合
	(イ) A村農業協同組合
	(ロ) B村農業協同組合
	(ハ) C村農業協同組合
第二節	県信用農業協同組合聯合会
第三節	県購買農業協同組合聯合会
第四節	農業協同組合窮乏の原因、現状、影響
第五章	採らるべき対策
第一節	単位組合の整理及び監督、育成の強化
第二節	系統機関の機構の問題
第三節	農民の啓蒙、自覚、意識高揚の問題
第四節	むすび

第一部 総 論

第一章 序 論

終戦後の食糧の絶対不足を背景とした農村の一時的なインフレ景気も終り、三年以降農村経済の窮乏の叫びは日一日と強く高くなつて来た。しかして、およそ農村経済が国民経済の一部門である以上、農村経済の窮乏と云う事も農村部門のみをとらえて論ずる事は出来ない。特に我が国経済の苦悶は窮極に於て最も弱体な農業部門へ皺寄せされて行くと云う必然性のゆえにこそ問題がある。

我が国民経済は昭和二四年度下ツジ政策遂行以来インフレーションからインフレ収束、経済安定化へと非常な転換をしつゝあり、従つて農村経済も一大転機に立つた事は周知の通りである。而も二四年後半より世界食糧事情の変化は我が国へも外国食糧の流入の飛躍的增加となつて表れ、食糧事情の好転が確実となつて

来た事はこの新段階を一層決定的なものとしたといわねばならぬ。即ち戦後の食糧不足は外国食糧の輸入増大により次第に解消の段階に達し、農村経済は愈々過去に全く経験しなかつた外国食糧との競争圧迫(過去に於ては不足分は「円」の範囲内である植民地から移入可能であつた)と云う一大悪要因に直面せざるを得なくなつたのに加え、一方に於てはドッジラインによる超均衡予算実施から来る一般的な不況、金融の逼迫と云う容易ならざる事態が進行し、この両者が重なり農村経済は急激な苦境を味わざるを得なくなつて来た。

農村経済の様相を総合的に最も明瞭に表すのは金融のバランスの面である事は云う迄もない。即ち次に示す簡単な数字にも端的に知り得るであらう。

農林中央金庫の預金のピークの日時と額をみれば次の如くなる。

二三年 一月六日 三三、五九九百万円

二四年 一月二〇日 三四、三九九百万円

二四年 一月三十一日 二七、〇四三百万円

即ち今年は昨年一昨年に比し約七十億円もピーク時に於ける預金は減少している。而もピークは例年一月のものが十二月に移行した事は注目すべきであり、農村が一月から早くも資金需要が始まつている事を示すものである。又単位組合の農中に対する預金の吸収率をみると二二年度平均三五・四%から二三年度平均二一・八%二四年度平均は一四・二%と急激な低落を示している。

従つて農業協同組合に於ても今年は一月から既に信用農業協同組合聯合会より無担保貸出に頼るもの、更に二月からは預金払戻を停止或は制限せざるを得ないものも出ており三月末既に百以上の単位組合が預金払戻を停止せざるを得なくなつた。

斯くの如く二四年後半より前述の二つの要因により農村経済は極度に窮乏して来たが以下に於て之が窮乏の原因を極く簡単に整理してみる。

第二章 農村経済窮乏の基本的要因

第一節 供米代金流入の減少

ドッジライン実施による経済安定政策により米価は農民側の再生産費を償うべき米価と云う主張は入れられず、物価賃銀に対する影響のない様にとの見地から

最近の農村経済、農業協同組合の窮乏について

予想外の低価格が決定された。而も超過供出価格は今迄の基本米価の三倍から二倍へ引下げられたのである。その上今年は天候の為作柄も悪く又供出が遅れた為早場奨励金が激減した。従つて供出総量の減少と重なり、供出代金総収入は案外に少く年度全体にしてみれば幾分増加している如くであるが、農手の利用の増大(二四年度では三三年度に比し百三十億円増)をカバーするには到っていない。特に九月から三月までの食糧供出代金の支払を農中段階に於てみると三三年度には一千七百八十二億円であつたものが、二四年度には一千七百五十九億円と二十三億円の減少になつてゐる。

斯る如く、九月から三月の期間特に一月以降の食糧代金の収入の減少は、甘藷の昨年度より四十億円の減少等に主に起因するが、預金減少期と重なるので事態は甚だ悪化するものとみられる。

兎もあれ二三年度より二四年度は農手償還分を供出代金より差引けば約百億円以上(大体百五十億円程度)の減収になつた事は農村経済窮乏の直接的な原因とみられる。斯くの如き供米代金の流入状況を府県別にみるのであるが資料の都合上九月から十二月迄でみると左の如くなる。第一表にみる如く九月から十二月迄の供米代金(米、甘藷、馬鈴薯)の総収入は昨米穀年度(一昨年九月から十二月迄)は千二百五十九億円であつたのに今米穀年度(昨年九月より十二月迄)は千七百七十七億円と約九十億円減じてゐる(この千七百七十七億円の供出代金中諸類は約百六十億円、昨年は千二百五十九億円の内約百八十億円である)。而も農手の返済の為に右の供出代金より十二月迄に今米穀年度は百二十六億円(昨年は二十三億円であるから昨米穀年度より約百億円増加)が差引かれ、従つて現実に農村に流入する供出代金は十二月迄に千五十億円と昨米穀年度同期よりも約百九十億円の減少をみてゐる。

斯る事情を反映して中金の預金のネット増加は一昨年十二月の二百五十二億円に比し昨年十二月は百六十億円に過ぎない。而も預金歩留についてみれば昨年二〇%に比し今年は一四・一%に低落をみてゐる。

(1) 主要米産県

昨年九月から十二月迄の供米代金の収入状況を主要米産県についてみると次

の如くなる。

(単位 百万円)

宮城 秋田 山形 新潟 富山 石川 福井	二四年産米 供米代金 入額 農手償還分 を差引いた額	二三年産米 供米代金 入額 農手償還分 を差引いた額
宮城	二、五五七 一、九三三	二、九六三 二、九〇〇
秋田	四、五六三 三、八四五	四、六〇五 四、四九五
山形	五、〇五七 四、四一一	五、七四七 五、四七八
新潟	一、四七〇 一、〇三七〇	一、一九七 一、〇八一七
富山	四、〇二六 三、一四三	四、三六三 四、二二七
石川	三、一〇五 二、六五三	二、八九三 二、八七〇
福井	一、六三六 一、三〇六	二、〇八六 二、〇八六

註 第一表と数字が異なるのは第一表は甘藷も含む結果である。なお別表は電報により集計したものの。本表は中金支払の数字。

即ち斯くの如き早場地帯或は米作地帯に於ては、供米代金の絶対額に於ても石川県以外は総て昨年より減じており、更に農手の償還額を差引いた実際の農村への流入額に至つては殆んど各県とも昨年より大幅に減少し山形県に至つては、十億円の減少をみている。これは他の府県についても同様で全体的にみられる傾向である。(第一表参照)

第一表 昭和二十四年九月—十二月食糧代金預金歩留調

註 右二十三年度
左二十四年度

農中支所名	食糧代金支払額 A	預金ネット増 a	農手償還額 b	貯払貸出償還 c	歩留 $\frac{a}{A}\%$	$\frac{a}{A-(b+c)}\%$	$\frac{a+b+c}{A}\%$	農手償還を差引いた食糧代金 A-b
札幌	一一、八七二 一五、二五一	一一、二四二 一、二三六	四、一五九 一、九九九	三六〇	一〇・五 八・一	一一・七 一・六	二一・〇 三・八	一〇、六一六 一、〇五二
青森	二、四四〇 二、〇二五	一六二 五	三、五九七	三六	六・六 〇・二	一・六 〇・三	一・九 六・九	二、四三三 一、六六六
盛岡	一、九七四 二、三〇四	六三三 五二六	三、九二七	二九	三三・〇 二二・八	二八・〇 〇・八	三三・四 四一・八	一、九四七 一、九〇七

農林中金監理第二部調 (単位 百万円)

(2) 九州地方

上述の米作地帯以外に特に窮迫している地方は九州地方である。第一表によれば、福岡は供米代金収入は昨年の七十億円に比して今年は三十六億円と半減に近く、而も農手は返済どころか逆に依然農手を振出してゐる状態である。同傾向は長崎、大分にもみられるが、宮崎、鹿児島と共にこの地方は総て県信聯よりの無担保貸出に依存しており、これは災害が最大の原因であるが、かかる全面的な無担保貸出はこれまでになく特筆されるべき事項である。

(3) 東京近辺都県

又第一表中、業務局とあるのは東京、神奈川、埼玉、千葉、山梨の各都県であるが、この地方は九月—十二月に於ける預金の増加は二年は十二億九千万円であつたものが二四年は三億一千万円の減少で、非常な窮乏がみられる。

斯く大都会近郊の農村の窮状は一見不可解に思えるが、インフレの上昇時にあつてはこの地帯は最も早くブームを味つた地方であると同時にインフレ終熄の時期に於ては都市に於ける金詰り現象を敏感に受け不況の波の影響を最も早く受けるに至つてゐるのである。

以上により今米穀年度の預金が伸びないのは供米代金収入の絶対額が昨米穀年度に比して減少している事及び災害、インフレ終熄過程に於ける農村経済の一般的な不況等に基因するものであることが判明した。

岡	和	神	大	京	名	岐	金	静	長	新	業	前	宇	茨	福	山	秋	仙
歌					古						務		都					
山	山	戸	阪	都	屋	阜	沢	岡	野	潟	局	橋	宮	城	島	形	田	台
二、三、 七八一 六七	六、七、 八九五	三、三、 五〇六 四三	一、二、 九〇三 〇九	三、五、 五〇四 八六	四、六、 一六八 二八	一、二、 六一〇 四四	九、九、 九三六 一七	一、一、 九四八 八七	二、二、 九八七 一七	一、一、 四三三 五九	一、八、 九三〇 五一	二、一、 〇三七 〇六	二、三、 八二七 四一	三、三、 九八六 六六	三、三、 四四四 四四	四、五、 八五一 六五	四、四、 三三三 五二	三、二、 二二三 一八
一、 六〇六 八一	四、 一〇〇	八、五、 四〇三	四、三、 六八一	一、一、 五〇八 六八	一、五、 九三三 八	二、五、 二五八 〇	一、三、 六八七 二九	六、二、 〇八九 六	三、八、 五六四	三、三、 九七二 八	一、 三一九 〇六	二、一、 二四八 六	四、七、 四二五 六	二、六、 二一八 四	二、四、 二五〇 四	一、二、 二五七 〇	五、五、 五八四 七	一、四、 二一七
(-)				(-)						(-)	(-)(-)							
二、三、 〇一	一、 〇	一、二、 八〇	四、五、 〇	六、五、 一	八、五、 〇	五、二、 〇	一、六、 七五一 〇	二、八、 〇	二、五、 〇一	一、 〇三五 八	三、八、 二六	〇、〇、 〇	二、一、 九八	一、〇、 四一	六、五、 九一六	六、四、 一六二	七、〇、 〇一五	五、九、 五二七
二、 〇				三、 〇			一、六、 六	一、 〇	三、 〇					一、三、 二		二、 〇一	四、	
										(-)	(-)(-)							
二、三、 一八〇	五、一、 八三	二、六、 四五一	二、四、 八九〇	三、二、 九七九	二、三、 〇〇七	一、六、 五二	一、三、 五二	三、〇、 九四	一、三、 〇〇	三、三、 四七九	一、二、 三五六	一、一、 八七二	一、二、 〇八	五、八、 二七	一、七、 二七	二、六、 八七五	一、二、 二六六	一、二、 三八八
										(-)(-)								
二、三、 一八〇	五、一、 九三	二、六、 四五一	二、四、 八三〇	三、二、 九七九	一、三、 九七七	一、六、 五二	一、二、 七四五	三、一、 九四四	一、三、 〇六〇	三、三、 四八	一、二、 三六六	一、一、 八七二	一、六、 二二九	五、八、 九二	一、九、 三三一	三、〇、 九七九	一、二、 五四九	一、四、 三六一
										(-)(-)								
三、三、 七〇	八、一、 八三	二、九、 四一	二、六、 六〇	三、二、 九七九	二、三、 〇一七	一、九、 五二	三、一、 九六	三、二、 四四	一、三、 四〇〇	四、六、 三九九	一、〇、 八六	一、一、 八七二	二、二、 三三一	一、八、 三二	二、九、 七五	三、四、 九一	三、一、 〇八	二、一、 四三七
二、三、 五一六	六、七、 八四七	三、三、 一七六 三	一、八、 五三九	三、五、 〇四五	四、六、 一六八 七	一、二、 五〇四	八、九、 二四七 五	一、一、 九三〇 七	二、二、 七〇八 一六	一、〇、 三六六 七	一、八、 五二九 五	二、一、 〇三七 〇六	二、三、 二六三 五	三、三、 八八二 五	二、三、 八四三 八	四、五、 二一九 九	三、四、 六三三 四	二、三、 六二六 六

合	鹿	宮	大	熊	長	福	松	高	山	広	松
児											
計	島	崎	分	本	崎	岡	山	松	口	島	江
一二五、七一九〇	一、〇一七三五	一、五〇六六七	七九三三八	二、三二四一九	七六三三八	三、七〇八四八	一、〇四五六一	二、五〇五四二	一、七九三三四	二、三五六七一	二、六六五二一
一二五、六〇二九	八七二七	(-)	(-)	(-)		一、三四四一八	二、七四四八	三八〇〇七	四七九一四	一、五八九九	五、六〇五四〇
一二、六二〇五	三三七〇	(-)	(-)	(-)	(-)	三八八〇〇	〇〇	一八一	三三四〇	一二三〇	三、四一七〇
一、八五二	九七	(-)				七四		一〇七	一		八一
一四〇、一〇	八、四六一	一、〇七	七、四三	五、一五	一、〇二五	一、四九八〇	四、九三	一、一六八四	五、一九	二、一八	二、二一六
一六、一四	一、四四八	一、二七	六、二三	五、四一五	一、〇一五	一、四九〇	四、九三	一、二六四四	五、二九	二、一八	二、五三〇
二六、四九	五、〇四一	一、五〇四七	二、〇八九	一、一〇八	九、〇三五	一、五八八	四、九三	二、〇七四	七、〇九	二、二九八	三、六七一
一〇五、〇九八	六、八三五	一、五〇六	五、四二	二、三二一	六、八三八	三、六〇六三	一、〇四五六	二、五〇五四四	一、七六三三	二、二五八七	二、三〇五一

第二節 主食闇価格の下落

第一節にみた如く供出総収入すら昨年に比し減じているのに加へ輸入食糧の増大による食糧事情の好転（輸入食糧は二三米穀年度一八八万廬、二四米穀年度二六〇万廬、二五米穀年度は三四〇万廬の予定）は内地産主食に対する需要を減退せしめた。特に注意を要するのは過去の如く日本米に対する異常な執着は食糧不足の期間に代用食に馴らされ余程變化した事である。従つて一般的な不況による有効需要の減退と相俟つて主食の闇買では減少し、逆に窮迫する農民は売り急ぎをする結果、農民は昔日の如く飯米を売つて雑穀を食べる全く売手側の地位に立たされ、闇価格は叩かれ、下落一途を辿つた。即ち第二表にみられる如く産地に於ては一升五十円の処すらあり消費者価格一升六十三円より低い。又第三表にみ

られる如く昨年同期に比して都市の闇価格も相当な値下りを示して居り、昨年迄は大都市の闇価格により生産地の闇価格が左右されていたものが今年は農村近郊の中小都市の闇価格により生産地の闇価格が左右され従来と全く違つた事情を示している。昨年迄は主食の闇収入により農家は供出による不利を相当程度カバーされていた事実が協組、中金の預金の増加に対して好影響を与へていた事是否定出来ない。

第二表 粳精米一升のヤミ価格（一月十五日現在）（単位 円）

北海道	最高	最低	中	庸
一四〇		八〇		一〇四

大分市	福岡市	香川市	広島市	愛知県	長野県	福井県	新潟県	東京都	埼玉県	山形県	秋田県	宮城県	岩手県
分岡	岡川	川島	島阪	阪知	知野	野井	井潟	潟京	京玉	玉形	形田	田城	城手
一二二	一四〇	一〇〇	一三五	一八〇	一五〇	一〇〇	一一〇	九五	一七〇	一二〇	九〇	八五	七二
九〇	五〇	六一	六〇	五〇	六〇	七〇	六五	九〇	一五〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇
一〇〇	一二〇	七三	一〇〇	一五〇	九〇	六五	七〇	六〇	二二〇	一一〇	六〇	五〇	六〇
一〇五	一二五	八四	一一〇	一七二	一一四	七五	八四	七三	一六五	一二九	七三	六六	六六

第三表

都市に於ける米一升開価格昨年本年一月対比

(単位 円)

札幌市	青森市	秋田県	仙台市	福島市	新潟市	東京都	名古屋市
一三九	一二三	一一〇	一一〇	一三五	一二〇	二三九	二〇一
一四〇	一〇〇	九〇	一〇〇	一〇〇	九〇	一六〇	一六五
大分市	鹿児島市	福岡市	高松市	松江市	広島市	神戸市	大阪市
一四〇	一五五	二〇〇	一三五	一四〇	一七五	二一〇	二四〇
一三〇	一五〇	一六〇	一二〇	九五	一六〇	一八〇	一八〇

然しながら以上の如き開価格の下落は戦後の唯一の大きな収入源であつた開収入の減少となつて来た。従つて農産物の出廻りも供出制度のあるものは供出部分が増大し開収入を減少させると共にその他の作物については出廻りが増加しその

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

結果価格の下落をみるに至つてゐる。

これ等は愈々農村の窮乏を強めるものと云える。

第三節 価格関係の不利

インフレ収束過程に於ては農家にとつて農産品と購入品の間に非常な不利が起る事はみのがす事は出来ない。

具体的にみれば米は二三年四月を一〇〇とすると二三年七月一三七・八と云う頂点を示して以来、二四年にかけて終始下降乃至停滞を続け特に二四年十月以降の下落は急激であり、二五年三月には六四・〇となつた。

その他主食品も二五年三月大麦九五、小麦粉七〇、甘藷五五、馬鈴薯五六と米以上に顕著な下落を示している。

野菜類に關しても二四年の統制撤廃後夏期にかけて一時上昇したが暮から暴落している。畜産物の下落も大休同様傾向を示している。之等自由物価に対して公定は多少上昇し、闇と公定の差は縮小した。東京の消費者物価調査によれば白米の倍率は二三年度九倍程度から二五年一月には一・五倍になり、小麦等は一・六倍になつてゐる。

此等は食糧事情の好転による闇購入の減少と更に配給辞退さへも見られるに至つた有効需要の減退、更に農村にあつては現金入手の必要から所謂窮迫販売がみられるに至つた事によると思はれる。斯る農産物価格の下落は農家収入のマイナスとなるので支出面削減によるプラスの要素がなければ農家所得減退を来す事になる。従つて農家購入品価格の動きをみるに次の如し。

農産物が二三年下期から下落傾向に入つたのに対して購入品の方は二三年は未だ停滞的乃至緩慢な上昇であり、二四年に入つてから闇の化学肥料、医薬、衣服等は緩慢な下向傾向を続けているが、石炭、地下足袋、ゴム等は二四年に入つても上昇し、農機具は横バイであるが、未だ高い水準に止つてゐる。然し二五年に入ると総て下降している。

斯くの如く農家購入品はデイスインフレの影響が農産物よりも時間的にずれて生産回復、有効需要の減退による物価下落が遅れて始まつてゐる。

云う迄もなく農業の生産期間は長く必要な経費は収穫期の半年位前に支出され

るものである。為農業生産は物価下落期には甚だ不利となる。

即ち收穫期と支出期との半年のズレによる不利は一年のズレとなつて拡大される。斯くの如くデイスインフレ下に於ては農産物価格と購入品価格とのこの様な關係が農家經濟を圧迫し農家所得の減退をもたらし農家の再生産資金を増大する事になる訳である。

第四節 當農資金の増大

然るに之に對する農家の支出面は昨年より一層の増加が見込まれる状況にある。即ち今年に肥料代金はドッジラインの実施により補給金の廃止の方向へ進み今年に未だ百三十億円あるがこれと時期的に区分して補給する結果一月以降昨年十二月比二〇%三月以降三五%の値上りが、更に七月以降は七〇%も値上りが見込まれている。

之を確安はじめ各種の肥料についてみれば概ね次表の如くである。

諸肥料値上り見込状況 (一トン当り 単位 円)

	十二月現在	二十五年度一月以降 (値上り率二〇%)		二十五年度三月以降 (値上り率三〇%)	
		(値上り率二〇%)		(値上り率三〇%)	
硫酸安	一二、七九四	一五、三三二		一七、二七二	
石灰壘素	一二、七九四	一五、三三二		一七、二七二	
過燐酸石灰	五、四五二	六、五四二		七、三六〇	
加里	一一、六五〇	一三、九八〇		一五、七二七	
硝安	一八、三五七	二二、〇二八		二五、九〇七	
尿素	二六、七〇一	三四、五四二		三八、八六〇	

七月以降の七〇%の値上りで計算すると、農業粗収入に對して肥料支出割合は金肥のみで既に一三%となる。戦前肥料支出は有機質肥料を含めて農業粗収入に對して一三%と云う数字が最高であつた事を考えれば肥料支出も限度に達する事になる。

従つて當農資金の必要量は昨年に比して相当程度増加する事は必然である。新潟地方の推算によれば同地方の當農資金は昨年より約一割以上(一昨年十月から昨年三月まで)百二十三億円の資金放出が必要であつたが、今年一昨年十月から

今年三月まで一は百三十六億円の資金放出が必要とされている。増加するのではなからうかと云われている。之も愈々農村經濟を圧迫する事は云う迄もない。

第五節 過剰人口による重圧

深刻なデフレ現象から弱体企業を始め相当大規模な企業整備が昨夏以降行われているが、此等による失業人口の増大は農村に流入して居り人口の重圧による農村の窮迫は著しい。即ち総理庁の労働力調査によれば二十四年は三年に比し非農林業の人口は約一〇万人程度減少しているが、農林業は約二〇〇万人増加していた。特に同調査に於て注目すべきは郡部に於て非農林業人口の減少は顕著である事から郡部に於て非農林業から農林業へ転落した事が推定されるが、之と農林内部の増加人口の離村の抑圧が農林業の人口増加となつたものと思われる。この傾向は愈々強まるものと思われるが、斯る農林業人口の増加が農村の労働市場を形成するとすれば、その賃金は都市より農村の方が上昇率を低下さす事になる。農林省調査統計部の調査によれば二年平均を一〇とした賃銀指數の推移は農村に於て二十四年十月の三二・七を最高として低下し十二月には三〇・九・二となつて居るが都市に於ては大體増加一途を辿り二十四年十二月五七・七となつて居る。而も農村の労働の就業時間調査によれば週三五時間以下が急増している事は極めて注目すべきであり、結局過剰人口を無理に収容する結果労働を不必要に分担して辛うじて就業を維持している。即ち潜在失業者群が増加していると見ねばならない。

斯る人口重圧、農村賃銀の低落傾向は曾つての如く工業の優位はなく農村人口のハケ口は殆んどない以上、過剰人口による農村經濟窮乏の問題は極めて重大なものと云える。

第六節 むすび

いずれにせよ農村經濟は戦後の一時的なブーム期を越し二二年以降下降を示して来たが、二四年後半より愈々恐慌状態を現出して来た事は何人も否定出来ぬ事実と云わねばならぬ。試みに、農家一戸当りの収支は三年度三万二百六十五円の収入超であつたものが、二四年度は二万九千九百七十四円の赤字となつて居り、而も負債も三年度の四百四十六円から二四年度は四千八百五十一円に増大している。即ち戦時中の農業の収奪化による疲弊及び戦後のインフレーション進行中

に起つた種々の農村経済内部の苦悶は食糧の絶対不足を背景とする異状なブームの期間中は一時的に蔽われていたものが、今やドッジライン政策によりインフレ終熄化の過程に入ると共に弱体企業としての中小企業が痛めつけられると同様、国民経済の中で最も弱体な農業面に整理のしわが寄せられつつあるのであつて、更に食糧事情の好転と云う様な要素も加わり、農村経済の窮迫が加速度的に進行していると見ねばならない。

そして農家経済の窮迫は莫大な失業人口を抱え農業のバランスシートの逆調、農家収支の赤字の著増、組合金融の混乱から来る金融の梗塞、借金の増大等の形で表れて来た。然しながら農家は他の企業体と異り如何に経済状態が苦しくとも規模の縮小、整理、淘汰はあり得ない。飽く迄も経営を続けねばならない。而してそれは家計費への喰込み、即ち生活水準の低下により自給経済部分の拡大と云う形で経営を続けざるを得ないのである。正しく今後農業は本意ながら莫大な過剰人口を抱え生活水準を低下させ自給経済圏を拡大させ国民経済の循環からより多くの部分を脱落させて行かざるを得ないであらう。

而してこれが現今の国民経済全般に及ぼす影響は甚大なものである事は当然であるので今後注目を要する問題と云わねばならぬ。

第三章 農業協同組合の窮状

昭和二三年以来農村の窮状が進行するにつれ農業協同組合の資金運用は窮迫して来たが、昨秋以来その勢は更に急進し、今年五、六月以降の預金減少期を前にして現在既に閉鎖を余儀なくせられた組合も各地に現出しつつありこの勢は更に一般化する傾向がみられ、農民と密接に結びついた農業協同組合の資産内容の悪化は頗る重大な意味をもつものと云わねばならない。

斯る農業協同組合の一般的な窮乏は次の様な種々の数字から例証も出来る。

(1) 上級機関に対する預け金の減少、即ち預け金残高及び増減状況は次の如くである。

	二三年一月二月末	二四年一月二月末	増	減
単位組合預け金	六、三三百万円	七、〇五百万円	(+) 九、三三百万円	
県信聯預け金	四、三三百万円	三、五三百万円	(-) 七、五五百万円	

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

	二四年一月二〇 日現在	二五年一月二三 日現在	増	減
中金ネット預り金	三、三三百万円	三、二〇百万円	(-) 八、三九百万円	
預け金の減少にも拘らず放漫経営の為不良貸を含む貸出金の急増、即ち残高及び増減状況は左の如くである。				

	二三年一月二月末	二四年一月二月末	増	減
単位組合貸出金	二、三〇百万円	三、六七百万円	(+) 七、三七百万円	
県信聯貸出金	九、二〇百万円	三、〇七百万円	(+) 三、八三百万円	
農中貸出金	二四年一月末	二五年一月末	増	減
(1)(2)を反映して借入金の増大、即ちこの残高及び増減状況左の如くである。				

	二三年一月二月末	二四年一月二月末	増	減
単位組合借入金	三、二五百万円	二、八三百万円	(+) 七、四八百万円	
県信聯借入金	七、五五百万円	四、五九百万円	(+) 三、八四百万円	

(4) 全国銀行預金中に於ける協同組合預金の占むる割合の激減、即ち単位組合は二一年末二六・一%から二四年末は二〇%以下になり、県信聯は同期間の比較に於て二〇%から一〇%以下になった。斯る窮乏により三月末現在既に百以上の貯金払戻停止組合が現出し中金より県信聯に対する無担保貸出も三月末既に二十億円以上に達し九月迄には約七十億円が見込まれている。

右に見られるような窮乏をもたらした原因は云々迄もなく最近の農村経済の窮迫に外ならないが、右とは別に協同組合自体に存する原因として左の諸点を挙げねばならない。

(1) 報奨物資の莫大な滞貨が各組合の経理を圧迫していること。(これは県が供出成績の標識としての報奨物資を強制的に単協に買取させた事による。)

インフレーション進行時代闇価格が公定価格を遙かに上廻っている時に於ては公定価格を以て購入せられた報奨物資は農民が受取らない場合でも他に転売する事が可能であり、協組にとつて負担にはならなかった。然しながら一般的不況が露呈し、昨年後半以来闇価格は公定価格を遙に下廻るものが続出し、

従つて市場価格の低落をみた現在農民が協同組合より割高な商品を購入しない事は当然と言わねばならない。この為総て滞貨になると云う結果が生じ資金の固定化を来した。例へば秋田県では四億円の報奨物資の滞貨を生ずるに至つてゐる。具体的には銘仙等が最もよい例で一反千数百円で購入したものが、現在の市場価格は四百円程度に下落して居り、協同組合から購入する農民は一人もいない。報奨用作業着等も商人が投売りする程度の粗悪品が多いので農民は購入しないと言ふ状況を呈している有様である。

(2) 経験と能力の乏しい新らしい指導者が戦後のインフレーションのブーム期に無定見に購買事業の拡張に専心したり、回収不能な不良事業へ投資してゐたこと。

これ等の購買事業は、インフレーションの進行中は非常に利潤を生んでいた事もあるが昨年後半以来に於ては(1)と同様な原因によつて仕入れた種々の物資はストックになつたり、値下りにより損失を生ずる結果を来した。農村恐慌の声におびえ、無能力な指導者達のとつた防禦対策としての購買事業が一般的な不況の兆が見え出して以来はその本来の目的と反し目先のきくメーカー、商人達に完全に利用され喰物にされた例が極めて多い。

(3) 協同組合組織にあつては人的信用が最も重要であるにも拘らず、新らしい指導者に対する一般の信用の低いのに加へて(1)(2)にみられるような不手際の結果農民の不安は次第に表面化するに至り、預金することを躊躇したり又預金を引出すに至つたこと。

(4) 旧農業会時代よりの不良購買品を多数かゝてゐること。

(5) 此等の要因により事業資金の大部分が焦付き固定化するに至つたこと。

(6) 公共事業費の国庫補助金が打ち切られたこと。

土地改良費、耕地整理事業費等に対しては補助金を引き当てに協同組合は全国で十八億円に達する巨額の貸出を行つてゐた。然るにドッジラインによる超均衡予算の実施と共に補助金が打切られこれが総て協同組合が負担する結果となり図らざる資金の固定化を来したのである。

(7) 然しながら組合金融の斯る窮状の原因は次の如き機制的機能的欠陥にも求め

られるであろう。

戦後農業は戦前のそれと全く異り種々の改革が為され農業政策の根本的な対策が急がれてゐるにも拘らず、農業金融の面に関する限り全く制度的にも手が打たれてゐない。即ち過去に於ては我が国の農業の特殊性、及び農業政策から土地担保金融と預金部特別資金、補助金が勸銀、北拓、農工の各銀行、組合金融機関を通じて農家に流れ農業金融はこの二つの支柱により支えられていたと見られる。然るに戦後農地改革により土地担保金融はなくなり、国家財政の窮乏により財政資金も流入しない。而も勸銀、北拓等総て普通銀行に變じ農業金融から手を引いてゐる。従つて全く農業の長期金融の途は絶えた訳である。現在の農業金融を担当するものとしては戦時中の農業会を人的、物的両面に於て遙に縮小した農業協同組合とその上級機関としての信聯、中金のみである。元來組合金融は零細な農家の預金を支柱としてゐる。而もその預金も全く「所得預金的」なものであり、農家の季節的需要性の故にこそ一時的に預金として預け金にされる性質のものである。従つて之が運用は如何なる事にせよ貯金払戻しに影響する事は充分考えられる処である。更に加えて現在の如き「窮乏せる農家」の預金である事は充分考えねばならぬ。

斯る組合金融機関のみである事自体が既に問題であり、之等に長期金融を供給させる事は全く不可能である。それにも拘らず他に長期金融機関がない為に最上級機関である農林中央金庫の段階に於ては或る程度長期金融にも関係せざるを得ない様な実情にある。又敢て之を為さしめてゐるのが国家金融である。国家金融が食糧買上げ前渡金の形で年に何千億円と中金に流入する。この故に前渡金が本来の性格と全く異つた長期資金の役割を或程度課さねばならぬ様な実情にある。

斯る点からみれば農林中金は組合金融機関としての性格が非常に歪められて来る。斯くの如く現在の農業金融は機制的機能的な欠陥があるのは云う迄もない。而もこの欠陥の根は国民経済のゆがみから来る極めて根の深い処にこそ問題がある。

従つて協同組合の系統機関の種々の問題も斯る処に問題の所在が求められて

然るべきである。

次に以上述べた一般的な農村経済、農業協同組合の窮迫をより具体的にみる為に先般実地調査せる秋田地方の例によりてこの問題を検討してみる。

第二部 各 論 (秋田地方実地調査)

第一章 農民の生活態度、思想

農村経済の窮乏、農業協同組合の窮迫の問題を論ずるに当つて農民の生活態度、思想を看過することはできない。農民の大部分の意識は現在の社会経済以前否むる封建時代といふ程で、先ずこれを理解してかからねば総ての問題を正當に把握出来ないであつて、然もこれはひとり秋田に止まらず、一般的な問題なのである。

秋田は徳川時代、外様大名たる佐竹氏の治下にあり、治政の方策が奢侈的に流れた所もあつた。且つこれは京都との交流が激しかつたことによつても助長せられた。この名残は秋田近郊の農家の朱塗り、建て方に京都趣味の点がみられる。更に自然的には県北部を除き中央及び西部の平野地帯は特に米作に適し最も重要な農産物である米にめぐまれ生活の不安が比較的少なかつた。又一年の約半分も雪に蔽われていることは農民を一層非活動的にしている。而も当地には大地主が多く多数の小作はその下で無氣力に耕耘に従事し棲息の生活に甘んじていた。一般に農民の生活は停滞的であるが以上の如き歴史的、自然的、更に社会的条件はいやが上にも秋田の農民をして忍従、無氣力な生活態度を強固ならしめた。斯る農民の生活態度、社会経済意識は例えば農民が負債を負う事に對しても又その返済に對しても極めて無神経であり、自己の生活設計、自己の農業経営に對して収支のバランスについても全く無関心に近く、ひいては協組の脆弱性をも醸成し、金融のベースはおろか、現代の経済の範囲外にあらしめ、従つて近代化された社会に於て農民は愈々取り残され、窮乏化してゆかざるをえないのである。

戦後のめまぐるしい社会経済状態の変化にも拘らず一般の農民は依然として昔日のままであるが、ただ二、三の農民は甚だ過激的な言辭を使用し(例えば耕作権放棄、米の生産制限等々)それ等はそれ儘ファッショ、極左に通ずるものがあ

り、それは正に五・一五、二・二六当時の農村事情を思ひ起させるものがあつた。斯るものは全く戦後の畸形的な啓蒙の結果であり甚だ遺憾と云わざるを得ない。

結局、農民は新らしき社会経済意識に目覺めず、自己の置かれている立場(国民経済中に於ける農業の位置)についての反省もなく、従つて自己の力を知らず、総ての力あるもの(権力、金力、政治的圧力等々)の前には自然の圧力の前と同様崩れ去つて行くのである。

その結果新らしき農村を支える経済的基盤である協組に對しても認識は足らず、協組は農民と遊離し、幹部の政治的な意図に左右される有様である。即ち経済問題も経済問題としてとらえられず、上述の農民の生活がその儘、単協、信聯に影響し、その内容の悪化、経営の放漫化となつて来ていると云わざるを得ない。農民の無神経から来る具体的な一例を示せば、農業手形が決済期日になるも尚償還が為されない事、協組よりの購買品、或は商人よりの生活必需品の買掛につき、その決済(返済)の觀念が甚だ乏しく、これが又協同組合の購買事業の固定化を助長しているのである。更に借金に無神経な事は、米の供出についても指定商に登録すればその石数により協組よりも遙に多く金を貸す為指定商人への登録が急増した。これは全県で一五%に達し村によつては三〇%にも達している処すらあり協組を圧迫すると共に農民自体が借金で苦しむ結果となつている。この際特に注意を要する事は国民経済の様相が過去と全く異つてゐる事、即ち貿易の縮小、工業規模の小さくなつた事、従つて農業の国民経済に於ける相対的比重の高まつてゐる事である。而も往時の如く農村より流出人口の吐け口は全くなくなつたとみてよい。この事は農業恐慌を過去に比し一層激烈にして到底従来の如き恐慌では済まず、而も過去の如く農民が窮乏と共に飯米を売り、娘を売つて尚生活の無駄をし、酒を飲んで苦しみを吐き出し、酔つて諦観し、忍従、無氣力で終るか否か、相当過激思想の擡頭の動きもあるので何等かの政治的反撥に出る事も考えられ、これが社会不安の種子とならぬとも限らぬ。特に農村の日雇労働者の形の賃労働収入が一般的不況、人員整理等により働き口を閉め出され、既に東京の如き大都市へ逆流し始めている。これは甚だしい低賃銀で就業するので目下の処

都市労働者を押しつけて就業しているが（従つて都市賃銀水準を圧迫して来るであらう）この勢が更に強まれば農村から食の形で都市へ人口の流出が始まるであらう。この辺に社会不安の糸口があるのではなからうか。

第二章 農村経済窮乏の根本的原因

この地方の農村経済の窮乏の根本的な原因は、第一部総論に於て指摘してある一般的原因と異なるものではないが極く簡単にすれば左の諸点に集約されよう。

(一) 秋田県下の農手償還を差引いた農民の手取り供出代金の減少、即ち農手償還を差引くと左の如くなる。(二月末現在)

二三年産米 五、六六二、五四九千円
二四年産米 五、一三三、四一一千円 (一) 五四九、一三八千円

尚農村によつては昨年よりも千万円減収の処すあり一戸当り二万円程度の減収の処すある。

従つて預金歩留りも単協の段階で二月末現在一四・九%と昨年同月末の二四・四%より遙に減少している。

(二) 連続した水害による復旧費の増大

秋田県は二年、二三年の水害更に二四年のキティ颱風と連続して被害を蒙つてゐる。二二年について災害復旧費は殆んどなく二三、二四年については之が認められたものの国庫補助による公共事業費は財政の萎縮により不十分なためいきおい単協の無理な貸出となり農民の負債を増大させる結果となつてゐる。

(三) 食糧事情好転による米の闇価格の下落は米単作地帯である当地方には深刻な影響を与えた。

(四) 一般的金詰りによる不況、都市の工業に於ける人員整理は農村に人を流入させ農村の過剰人口に更に拍車をかける一方、農村近在の日雇労働の口をも閉め出してつた。従つて地方中小都市への出稼は全くなく、労働者の形で東京の如き大都会へ再流出せざるを得なくなり、大都会への流出が始まつた。然し之等は非常に低賃銀で就業を余儀なくされている。或は娘売りの様な形も既に散見されつつある。

第三章 農村経済の実情

第一表に詳細に示されている如く、当県全体の農家の収支は年間にて収入合計八十二億七千三百万円に対して支出合計八十九億四千八百万円、差引六億七千四百万円の不足となつてゐる。

第一表 秋田県農家経済概況(自昭和二十四年十月至同二十五年九月)

秋田県信用農業協同組合連合会作成 (単位 千円)

(一) 収入の部		(二) 支出の部	
年間収入額	自二五年三月至同年九月収入額	年間支出額	自二五年三月至同年九月支出額
六、三二八、四二〇	二二五、〇〇〇	八、二七三、四二〇	二、二三四、〇〇〇
供米代金一、二四〇千石(内超過七一、五〇〇石)	一、二四、〇〇〇	租税	五〇〇、〇〇〇
木炭代金	一五、〇〇〇	肥料	四五、〇〇〇
繭代金	一二、〇〇〇	農機具	三五、〇〇〇
薬工品代金	四〇、〇〇〇	農薬	六〇、〇〇〇
麦、馬鈴薯、雑穀代金	七〇、〇〇〇	支払労働賃料	六〇、〇〇〇
煙草代金	一五、〇〇〇	飼料	一二〇、〇〇〇
蔬菜、果樹代金	二〇、〇〇〇	協組出資、負担金	三〇〇、〇〇〇
労働賃収入	一五、〇〇〇		
繰越貯金充当	一、四〇〇、〇〇〇		
合計			

報 奨 物 資	合 計	差 引 過 不 足	(一) 六 七 四、五 八 〇	(二) 三、三 三 六、〇 〇 〇
其 他 生 活 費 (一 戸 当 月 平 均 四、〇 〇 〇 円)	四、八 〇 〇、〇 〇 〇			八 〇、〇 〇 〇
農 手 返 済	七 三 八、〇 〇 〇			二、八 〇 〇、〇 〇 〇
合 計	八、九 四 八、〇 〇 〇			四、六 七 〇、〇 〇 〇
(三) 其 他				
			自 三 月 至 九 月 不 足 資 金 二、三 三 六、〇 〇 〇 千 円 対 して 農 手 借 入 八 〇 〇、〇 〇 〇 千 円 為 す も 尚 不 足 一、五 三 六、〇 〇 〇 千 円 (一 戸 当 一 五、三 六 〇 円)	

収入としては供米代金が六十三億円で圧倒的である。然しながらこれは殆んど十月から十二月迄の間に流入する。一方支出は生活資金が四十八億円で最大で、営農資金は肥料、農機具其他で十二億円程度でこれらは殆んど三月以降に支出されるものである。租税は十二億円で大体年間平均にして支払われる。

斯くの如く年間六億円の不足の予定であつたにも拘らず表の下端をみると三月から九月までの収支は収入二十三億三千四百万円に対して支出四十六億七千万円と実に二十三億三千万円の赤字になるのである。これは十月から二月迄の農家の収入期に於て収入が予定通り進まなかつたか、或はこの期に殆んどない筈の支出(営農支出等)が意外に多かつたかのいずれかであるか又は両方がからみ合つた為と考えられる。従つて三月以降の農家の支出期の為に繰越されるべき資金、預金等が非常に減少して、三月以降十四億円の預金繰越しが望めず、結局三月から九月迄には二十三億三千六百万円もの赤字を出す結果になつたと考えられる。而も三月以降の収入は繰越預金の引出の外には表にもある通り超過供米代金二億一千万円、木炭、藁、薬工品、馬鈴薯、蔬菜、果実等で約五億円、労賃収入一億五千万円で結局九億円程度しか望めず而もこれも減少の可能性すらある。然るに支出は営農資金の約十億円、租税五億円、協組の負担金、出資金で三億円、生活資金二十八億円と合計四十六億円で、支出の方は先ず生活費の切下げ以外に減少方法はない様な始末である。勿論この表自体にも種々問題があり、更に推定

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

であるが三億円から五億円あろうと推定されている「農家の見えざる借金」も全然考慮に入れない点等農家経済の概況を示すには不十分な事は云う迄もないが、一応この二十三億円の不足は最小限とみられるので一応之が調達方法を検討せねばならない。即ち、二十三億円の内八億円は農手で賄う事は兎も角として更に十五億円の不足分の調達方法としては未だ何等対策はないのであるが、目下考えられているのは農協以外の貯金払戻五億円、農協外借入一億五千万円、収入増加生活費の切り詰め等で五億円、それに農協よりの新規貸出三億五千万円程度合計十五億円である。然し、この調達方法には相当無理のある事を認めざるを得ない。即ち銀行預金を五億円引出し更に一億五千万円貸出を仰ぐ事としているが、今年はともその様な貸出を仰ぐ事は不可能と考えられる。昨年は営農資金としてその程度の貸出が出来た訳であるが、今年の如き一般的不況の下にあり農協の資金繰の悪化している時には無理と云わねばならぬ。結局生活費の切り詰めと収入増加に重点が置かれる訳であるが収入増加は余り見込めなく生活費の切り詰めによらざるを得ない。生活費(副食費と小遣)は月四千円に見積つてあるので之を一カ月三千円でやるとすれば約七億円支出を減少させる事が可能である。この点に重点を置く事が必要と考えるが、いずれにせよ農協から新規貸出三億五千万円程度と、農協以外銀行より五億円の貯金払戻をせねばなるまい。従つて地方銀行に対する影響も必然的に惹起されて来る訳である。当地方は地方銀行の預金と貸出は殆んど並行して居る様な状態にあることを考慮すれば之が尻は当然本行でみる様になろう。而も先に一寸ふれた如く収入源の最大である十四億円の貯金払戻に対して単協が応じ得るか否かも未だ不明である点問題はあはる。

然しこの農家経済概況の数字も先述した如き農家の生活態度を反映して相当生活に無駄があり、従つて幅のあるものである事は事実である以上よく吟味の上ギリギリの線まで不足額をつめその分に関しては面倒をみるべきであらう。

第四章 農業協同組合の実情

第一節 単位農業協同組合

以上の如き農村経済の窮乏期を迎え県下全体の単協の資金繰りをその主要勘定の推移についてみると第二表の如くなる。

第二表 農業協同組合資金構成状況調

秋田県信用農業協同組合連合会作成(単位 千円)

調		逓		運		用	
出	積	損	貯	借	未	仮	其
資	立	失	入	払	受	越	合
金	金	金	金	金	金	金	金
計	計	計	計	計	計	計	計
三、四、九〇一	一、一二三	(-)	七〇、四一〇	二、二二一、二三三	八六、四五四	二六、二二七	一〇九、〇〇五
二、四八五、二七三	七六、六三〇	一二〇	二、四八五、二七三	一、八九三、七九三	五三、九三二	一	六三、五〇一
六二、一六三	四、三九〇	(-)	一三五、二一九	八三〇、二四〇	九九六、五四九	一三、八三六	七三、二九二
九三、四八五	四、四九一	(-)	一七九、三四二	一、八二〇、七一二	二六一、五〇〇	一一、九〇〇	一〇三、八七六
一〇五、一三二	四、五三二	(-)	一八六、六六九	一、九〇八、〇九八	一六二、二九〇	一一、二八一	八五、二五四
二、一三一、六六二	四二、七四四	一	二、一三一、六六二	一六〇、四四五	四三、九九一	二七、五五二	六九五、七八九
				七一、三六七	四八六、〇四五	一一三、四七八	三二六、二八五
				一六四	一七、七六九	九〇、三二六	九九、四五一
				二、一三一、六六二			

二十三年十二月	二十四年九月	同年十二月	二十五年一月
---------	--------	-------	--------

同第二表の要点を摘記すれば次の如くなる。

(単位 千円)

	二三年十二月	二五年一月	増	減
出資金	三四、九〇一	一〇五、一三三	(+) 七〇、二三一	
貯入金	二、二二一、二三三	一、九〇八、〇九八	(-) 三三三、一三五	
借入金	八六、四五四	一六二、二九〇	(+) 七五、八三六	
損失金	七〇、四一〇	一八六、六六九	(+) 一一六、二五九	
預け金	一、〇九〇、二五九	六九五、七八九	(-) 三九四、四七〇	
現金	一〇五、八三五	七一、三六七	(-) 三四、四六八	
貸出金	二〇二、〇六七	四八六、〇四五	(+) 二八三、九七八	
購買事業	一八一、五二五	三二六、二八五	(+) 一四四、七六〇	
未収金	四、九二六	一七、七六九	(+) 一二、八四三	
固定資産	三一、二二五	一六〇、四四五	(+) 一二九、二二〇	

斯くの如く二三年末と比較して貯金、預け金、現金の激減、借入金、損失金、貸出金の著増となつてゐる。かかる変化を招来した直接的原因是購買事業資金の激増、固定資産の著増、更に又農民の窮乏を反映した未収金の著増によるものとみられる。特に出資金の極めて弱小なることを考えれば固定資産、購買事業費の巨額なことは経営の不健全を物語る以外何物でもない。

斯く単協自体の資産内容は甚だ悪化してゐる。三月始め現在にて県下では既に四つの単協は閉鎖せられ、十五位の組合は預金払戻の制限を余儀なくせられ、更に今後九月までには約百位の組合が無担保借入をせざるを得ない様な事態に立到つた。

三月から九月迄の預金減少期に対して既に前項の農家経済の概況にある如く二十三億円の赤字が単協を圧迫する事になる。これが資金運用計画として一応第三表の如きものが予定せられてゐる。この表で問題になるのは出資金がこの様に増加出来ないこと、借入金も果して借入可能かが未だ不明なこと、販売事業収入の七千三百万円は先づよいとして現在三億円の商品ストックと一億円の未払(購聯

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

に対する)計四億円の資金の固定をみてゐる購買事業の圧縮が二千六百万円であるのは余り過少であることである。少くもこれを一億円程度は圧縮すべきである。

第三表 単位農協資金流動見込(自二月至九月)
秋田県信用農業協同組合連合会作成(単位 千円)

資 金 調 達		資 金 運 用	
項 目	金 額	項 目	金 額
出 資 金	一九四、八六〇	貯 金 払 戻	一、四〇八、〇九〇
借 入 金	六〇三、六三〇	系 統 出 資	三六、〇〇〇
預 け 金 引 出	四八五、二七〇	農 手 貸 付	八〇〇、二五〇
現 金	二一、三六〇	農 倉 利 用 事 業	二、八三〇
販 売	七三、四七〇	其 他	二一、〇三〇
購 買	二六、二八〇		
農 手 借 入	七八八、九九〇		
利 益	一六、六九〇		
其 他	五八、六五〇		
合 計	二、二六九、二〇〇	合 計	二、二六九、二〇〇

次に具体的に単位協同組合の実体を三つの代表たる組合につき検討する。

これに先立ち一言したいのは農村経済の窮乏と単位協同組合の資産内容悪化の関連性の問題である。即ち組合の経営者の能力及び組合員の組合に対する意識のすぐれた所謂優良組合は基盤たる農村経済が悪化をみて健全たり得るか否かの問題である。これは明確に分離する事は不可能であらうが、少くとも次の如く謂い得るであらう。

昨年後半よりの深刻な農村経済の窮乏以前に於ては健全な組合はその農村経済の逼迫に対してよく防波堤たり得たが、現在進行しつつある如き根の深い農村経済の窮乏に対しては如何に有能な経営者組合員にしても限度に達しつつあると考えられる。何故なれば、供米代金収入の激減と關収入激減の如き収入源の絶対額

の減少に対して肥料の値上りの如き営農資金の支出増大と云う如き事態の現出による農村の窮乏はそのまま組合の窮乏とならざるを得ない。勿論優良な組合は同じ窮乏に向うにしろ之に對し或程度の防波堤たりうるであらう。之に反し不良な組合に於ては農村の窮乏に向つて一層拍車をかけることとなる。

以下に夫々のタイプについてみよう。A村は農村経済の基盤は悪いにも拘らず組合は比較的健全であり、九月迄に僅か百五十万円の無担保借入で本年度の危機は乗り切れる。B村のそれは農村経済は相当恵まれているに拘らず組合の経営放漫の爲内容悪く既に無担保借入をみており、更に約七百万円から八百万円の借入を要する有様である。第三のC村は藁工品、魚業もある商業的農業に移行している処であるが、双方共余りよくないので約六百万円の無担保借入を要求している。

(イ) A村農業協同組合

秋田県由利郡にあり山形県に近く総戸数二百十三戸、内農家戸数百七十三戸、耕地面積百七十三町歩、一人当り平均一町、農産物収入は米と少量の馬鈴薯で併せて本年は千四百八十八万円、一戸当り八万二千円程度である。税金は五百二十万円、一戸当り二万五千円で農家の純収入は僅か五万七千円である。斯る農家経済の苦しさを考えにおいて当村の協同組合の主要勘定をみる。

出資 借入 貯金	二四年二月末		二五年二月末		増減
	千円	千円	千円	千円	
出資	二六二	三四五	(+)	八三	
借入	六九	〇	(-)	六九	
貯金	六、〇一二	五、六一六	(-)	三九六	
預金	一、九二七	一、六七二	(-)	二五五	
貸出	一、八八五	一、八六八	(-)	一七	
購買事業	九五九	一、三二〇	(+)	三六一	
現金	三四〇	一二九	(-)	二一一	
固定資産勘定	三〇一	四〇七	(+)	一〇六	

当組合は運営よろしきを得ているもので既に昨年から経営を極めて引締め、

貸出金も増加をみず、購買事業も余り増大していない。最近の増加は肥料を早目に仕入れた事によるので問題はなく、その内容についても衣料品に一部不良なもののみみられる他は農業時代より引きつづきの農機具農業が焦げついているのみである。又購買代金の未払もなく、未収も僅か六万円に過ぎない。又組合特有の仮払金立替金の如き不明確な勘定も殆んどない。斯く経営を極めて圧縮しているが、基盤たる農村が悪化をみている以上貯金減少、預け金の減少をみている事は止むを得ないものがある。

次に今後の当組合の資金計画をみると次の如くなっている。即ち三月から九月迄の貯払は生活資金三百五十万円、営農資金百十六万円、税金百万円、計五百六十六万円に上る予定で、これに対して、預金を最低残三百万円と抑え、二百六十万円調達、購買事業の圧縮八十万円、合計三百四十万円の調達となり差引不足二百二十万円となるが、百万円は担保借入が可能で無担保借入は約百二十万円となるが、今後の貸出増加を見込み、五月以降約百五十万円の無担保貸出を仰げばよいとみている。この様に基盤たる農村経済の悪化は単協に影響を及ぼしその内容の悪化がみられるが、然し運営宜しきを得た場合にはそれが最少限に食いとめられていることを知りうるであらう。蓋し組合長は県下有数の組合経営の経験者であり組合員もよく協力していることによるものである。

(ロ) B村農業協同組合

平鹿郡B村は県中央の有名な米作地帯の一部にあり、総戸数六百五十二戸、内農家戸数四百七十二戸、耕地面積六百三町歩一戸当り一町二反、農産物販売高約四千万円、一戸当り約八万七千円、而も米、馬鈴薯、煙草等の販売収入作物の外、青果物、蔬菜等も十分な生産があり相当恵まれた所である。

然るにこの組合はAの組合と異り二月現在既に二百五十万円の無担保借入を行つてゐる。この直接的原因は供米代金収入が二三年産米の四千八百万円に比し二四年産米は三千九百万円に激減していることによると思われるが、根本は組合の経営の不良に基くものである。この点は次に示す組合の主要勘定からも判明する。

(單位 千円)

	二四年二月末	二五年二月末	増	減
出資金	五三	九五四	(+)	九〇一
借入金	一、六三五	三、一一三	(+)	一、四七八
貯金	七、一二五	六、五四七	(-)	五七八
預金	一、六六四	一、一六一 (借入によるもの)	(-)	五〇三
現金	六〇五	六	(-)	五九九
貸出金	一、二三五	二、九一〇	(+)	一、六七五
購買事業金	二、〇一九	三、五一八 (三月八日現在)	(+)	一、四九九
(未収購買代金)	八一	一、三〇一	(+)	一、二二〇
雑勘定	一、〇五二	一、五一〇	(+)	四五八
(仮払立替)				
未収金勘定	五	六二	(+)	五七
未払金勘定	五	五九	(+)	五四
固定資産勘定	一三二	九四八	(+)	八一六

右によれば貯金、預け金の減少は殆んどの組合にみられる所であるが、本組合に目立つた所としては貸出金の著増(而もこの内訳は甚だ不明確で一応生活資金一二%、営業資金四〇%、税金一三%、土地買取資金、水利費一六%、牛馬購入一九%となつてゐるが営業資金の大部分は生活資金に廻されたものとみられる。)購買事業の甚だしい拡大(而もこの購買品の勘からざる部分がストックとなつてゐる。)農民に対する未収金の増加、又雑勘定の大きい事(不良組合の共通現象)等組合經理の不健全は経営者の無能と農民の非協力を示すものといわざるをえない。かかる内容の悪化の爲既に二百五十万円の無担保借入を行つて居り、而も今後九月迄の資金逼迫期に対して如何になるかをみると左の如くなる。即ち先ず収入は次の如くである。

超過供米代金	百九十万円	購買品売却	二百七十万円
共済金収入	七十万円	未収金回収	百十万円

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

貯金引出 四百万円(二百五十万円の残とする)

計 千六十四万円

これに対して支出は生活資金、営業資金、税金で千四百万円程度となる。結局差引四百万円の不足となりこれを無担保貸出を仰がねばならぬ事となる。之に対して組合長は九月迄に約八百万円の無担保貸出を仰がねばならぬとしているが、これは甚だ根拠のないものであり納得が行かない。勿論今述べた収支予想も多分に動くと考えられるが、一応農手以外に三百万円から五百万円程度の無担保借入を行わざるを得ないであらう。この如きハッキリした計画をもたぬ組合が多い事は一考再考すべきである。更に組合長は組合として七面鳥経営により組合の窮状打開策を考えていた如くまだ購買事業により組合を運営すると云う悪夢を抱いてゐるのに驚ろかさざるを得なかつた。而もこの組合は農手を悪用し購買事業に流用したものが百五十万円程度あつた。斯る組合は内容整理迄信用事業は停止さす事が望ましいとさえ考えられる。更にこの村は米登録商に三分の一の農民が登録し、申し合わせた様に前借りをしてゐる事は驚くばかりで組合と組合員の間の乖離と云う事も充分考えられるのである。斯くの如く農村経済の基盤は比較的恵まれてゐるに拘らず組合の経営の不健全により非常な窮迫を來す結果となつたと云わねばならぬ。

(イ) C村農業協同組合

南秋田郡C村は総戸数六百六十一戸、内農家戸数五百五十七戸、耕地面積六百二十一町歩、一戸当り一町一反、米作の他に蔬菜もあり、魚業もあり、又特にこの村は薬工品の盛んな地方である。従つて相当商業的な農業に移行している型として調べた訳である。

尚この村の組合は県の優良組合として指定されてゐた処であり、統計資料はよく整つて居る点、又たすけ合ひ貯金、資金対策運動等よく実践した点その名にふさわしいが、農家経済の窮乏を防ぎ難く目下の処必ずしも優良とは思えない。二月末現在既に二百三十万円の無担保借入を行つてゐる組合である。

これが原因としては、供米代金が二三年産米の五千九百万円に比して二四年産米は四千四百万円と千五百万円の減収が窮乏の最大原因である事は云う迄も

ないが、商業的農業に近いだけに銀行預金も多く組合と離れつつある。而も組合の資金運用も必ずしも健全とは云い難い。先ずこの組合の主要勘定を見ると次の如くである。

(単位 千円)

	二四年二月末	二五年二月末	増 減
出 資 金	二七六	一、〇八五	(+) 八〇九
借 入 金	七三〇	四、八〇四	(+) 四、〇七四
貯 金	一〇、六七八	六、六一〇	(-) 四、〇六七
預 金	二、二五八	二、五一六 (借入による)	(+) 七四二
地方銀行への預金	一、八六一	一	(-) 一、八六〇
貸 出 金	一、六五三	一、六三九	(-) 一四
購買事業 (ストツク)	二、七九三	二、五〇〇	(-) 二九三
固定設備勘定	九三一	一、五二八	(+) 五九七
現金	八二	八七	(+) 五

これで見れば農家経済の窮乏を反映し貯金の激減、預け金の減少は致し方ないとして、更に組合は貸出金、購買事業共にむしろ縮小させている。然し購買事業の固定化は減少しているが、事業費の絶対額は千二百万円仕入れ九百八十万円売却している如く非常に大きくなっている。この組合で目につく事は預け金の内地方銀行(羽後銀行)に対する預け金が昨年は百八十万円もあつたのに今年は既に殆んどなくなつてゐる事は如何にその貯金の払出しが激しいかよく判明する。

経営として考えさせられるのは固定資産の増大である。この内利用設備としてトラックを購入している。この傾向は他組合にも多いのであるが、力に不相応な設備の感が強い。斯くの如くして放漫な経営でもないのに既に二百三十万円の無担保貸出に頼つてゐるが今後九月迄の資金計画を組合の意見と綜合してみると次の如くなる。

先ず収入としては次の如くである。

超過供出代金 五百四十万円 薬工品代金 三百万円
魚 業 収 入 七百万円 労 賃 四十万円
合計千五百八十万円となる。

これに対して支出は次の如くである。

生活費 千五百四十万円
営農資金(農手以外) 七百二十六万円
公租公課 六百三十万円
借入金返済(農手以外、農地買取り資金及び見えざる借金) 三百万円
合 計 三千百九十六万円
差引不足 千六百十六万円となる。

然しながら、農民は銀行、郵便局から約五百万円の預金を引出し得る様子であるので、千六百十六万円の不足金は千百十六万円の不足になる。従つて組合として面倒をみねばならぬ資金は、これに組合の未払購買品百万円の加つた千二百十六万円となる。

之に対して組合の資金調達は次の如くである。

貯金払戻 三百六十万円(三百万円の残とする)
購買品売却 百二十万円
販売収入(薬工品の未収回収) 百七十万円
雑勘定 三十万円
出資増加 二十万円
合 計 七百万円となる。

従つて不足金五百万円は無担保借入をせざるを得ないと見られる。然しながら、米の超過供出を百万円増加させ生活資金を一戸当月三千円とすれば百五十万円削減せられ、合計二百五十万円の削減になり無担保借入の必要額は二百五十万円であり事になる。当初組合長は農手以外六百万円の無担保借入を必要とするといつていたが、大体二百万円から三百万円程度で済むのではなからうか。然し当村の如く銀行預金を持つてゐる様な農民は一方「見えざる借金」が相

当多いとみられ組合では千万円とふんでいるが、それだけ商業資本に侵蝕された見えざる圧迫があるわけである。

斯くの如く、農村経済は強度に窮乏しているが、組合は比較的健全である村（A村）と、農村経済の基盤は恵まれているのに組合は非常な弱体と混乱にある村（B村）、更に比較的商業的農業に移行して居り而も農村経済、組合双方とも窮迫にある村（C村）の三つの型をみてみた訳である。

これによればA村の如く、固定設備事業資金も何もかも引締め而もなお五月以降無担保借入に頼らねばならぬ如き状態にある時にB村、C村の如く固定設備、購買事業の拡大等のあつた組合は例外なくその窮状は甚だしい。これは組合長の「人」の問題に帰せらるべき点が最大である事は云う迄もない。然しこれを見方を変じて考えれば、A村の如く農村経済が既にギリギリの線まで来ている処の方がむしろ組合と一体になりよく準備してある。而も生活の無駄もなく、むしろ無駄をする余裕もなく、生活費も組合の計画で一戸当り三千円としている。

一方B村、C村の如きはまだまだ真に農村経済がギリギリの線まで来て居らず組合の経営も放漫、又資金計画の内容を洗つてみても生活費に関しても始め組合では一戸当り五千円から七千円程度にふんでいた。斯くの如く生活にも無駄が多く、この結果として無担保の貸出を既を受けて居り九月迄の要求額も非常に膨大になつてゐる。又商業的農業に移つてゐる村は見えざる借金が非常に多い。これは当然商業資本に侵入された結果と考えられる。又一般的な不況の影響も早く強く蒙る結果にもなるので現在の農村経済の環境に於てはどのタイプが一番早くつぶれるか何とも云えない。従つて此処で一応の結論を出す事は危険と考えられるが、農村経済がギリギリの処へ行かない。即ち農民はまだインフレ景気の余力をもつてゐる農村の組合の方が経験と能力の乏しい指導者達により購買事業の拡張

第四表 県信連資金構成状況調

出 資 金	二十三年十二月			二十四年九月			二十五年一月			二十五年二月		
	貯	出	金	貯	出	金	貯	出	金	貯	出	金
	八、一三〇	八、一三〇	八、一三〇	一、二、八四〇	一、二、八四〇	一、二、八四〇	二五、九一〇	二五、九一〇	二五、九一〇	二七、四四〇	二七、四四〇	二七、四四〇
	八三三、三四六	八三三、三四六	八三三、三四六	一七五、八八七	一七五、八八七	一七五、八八七	六三一、三四七	六三一、三四七	六三一、三四七	五五七、六三三	五五七、六三三	五五七、六三三

秋田県信連作成（単位 千円）

固定設備の増大と力に不相応な拡張をし結果的にはむしろ早く弱体化している事になるのではなからうか。従つて農村経済がギリギリの線に行くまで、他に影響を及ぼさないで済むなら余り組合に対しては甘い施策をとらず、自分で反省し気づく迄指導、啓蒙、資産内容の整理をしてやる位にして置く方が将来の為とも云えるのではなからうか。

特にC村の農民の如く商業的農業へ進んでいる処は相当生活の無駄のある事は生活費の用途をきいて判明したが、この様な傾向はまだまだあると思われる。秋田から朝九時頃出る奥羽、羽越の両線は魚をかついで農村に入つて行く行商で車中も臭くて居られない。農民はまだ魚類を相当豊富に消費する力をもつてゐる。これによつてもまだ農民の生活は相当力があると云う様な気がした。むしろ単位組合の方が先きに混乱をみてゐると云わねばならぬ。いずれにせよ単協は甘やかして資金を流す事なく、さりとて敢て冷酷な仕打をする事も禁物だが、努めて細心に内容を検討しながら良いものはよく悪いものは悪くよく選択の上策をとるべきである。この為には中金支所出張所、信聯支所の指導監督を強化し厳しいが育成の方向に進まねばならぬ。これを明示するものとして農村経済の基盤のよい関西地方、特に和歌山、岡山県等の組合が意外に早く貯払停止を行つてゐる事である。これは農村経済の力にものを云わせ和歌山の如く養豚事業等大きな購買事業を行い極めて経営が放漫となつた為とみられる。斯くの如く農村経済の基盤がよい処は兎角購買事業の拡大等の為に組合としては窮迫している場合が多い事は充分考へべき事と云わねばならぬ。

第二節 県信用農業協同組合聯合会
信聯の主要勘定の推移をみるに、第四表の如くである。

之を要約して二三年十二月と今年二月を比較してみると左の如くなる。

出資	八、一三〇	二七、四四〇	(+) 一九、三二〇
貯金	八三三、三四六	五五七、六三三	(-) 二七五、七二三
固定資産	一六六	一、五〇二	(+) 一、三三六

右によれば預り金は二億七千万円、預け金は三億七千万円の激減をみてい
るのに対し貸出金一億三千九百万円の著増、固定資産百三十万円増加となり、こ

のため損失は百十六万円の増加となっており、県下単協諸組合の資産内容の悪化の影響が茲に及んでいることが看取される。

二月と云えば農村経済は例年ならばまだ窮乏の前にも拘らず今年は既に借入金
の増大、預金減少が見られ、甚だ資産内容の悪化している事を考えれば今後九月
までの資金繰りは苦難の程がよく判明しよう。

従つて三月以降九月迄の資金需要をみるに第五表の如く単協からは前述の如き
資金繰りの悪化より貯払資金に不足して既にこのため約六億円に達する無担保借
入の要求が来ている。これに対する信聯の暫定的な資金計画は第六表の如きもの
である。

第五表 支所別無担保貸出見込

秋田県信連調 (単位 貸出総額千円、一組合当円)

	二五年三月	四	五	六	七	八	九	合
秋田郡	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	八五、〇〇〇
一組合	一六九、五〇〇	二五四、二〇〇	二五四、二〇〇	一六九、五〇〇	二五四、二〇〇	二五四、二〇〇	八四、七〇〇	一、四四〇、七〇〇
北秋田郡	五〇〇	七〇〇	八〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	二〇、〇〇〇
一組合	一二、八〇〇	一七、九五〇	二〇、五〇〇	二〇五、一〇〇	二五、六〇〇	二五、六〇〇	二〇五、一〇〇	五二二、八〇〇
鹿角郡	三七、〇〇〇	三、二〇〇						六、九〇〇
一組合	二八三、三〇〇	二四六、一五〇						五八〇、七〇〇
仙北郡	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇
一組合	三〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二、二二〇、〇〇〇
由利郡	九、九六〇	五、六〇〇	三五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	四〇、三五〇	一三五、九一〇
一組合	二八四、五二〇	一六〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八五七、一四〇	二八五、七〇〇	一四二、八〇〇	一、一五二、八〇〇	三、八八三、一〇〇
平鹿郡	九、〇〇〇	一一、〇〇〇	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一一六、〇〇〇
一組合	二五〇、〇〇〇	四二一、〇〇〇	五三三、七〇〇	七一四、二〇〇	七一四、二〇〇	七一四、二〇〇	七一四、二〇〇	四、一四二、一〇〇
山本郡	五、〇〇〇	六、〇〇〇	六、五〇〇	八、五〇〇	七、五〇〇	一一、〇〇〇	八、五〇〇	五四、〇〇〇
一組合	一六六、六六〇	二〇〇、〇〇〇	二一六、六六〇	二八三、三三〇	二五〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二八三、三三〇	一、八〇〇、〇〇〇
雄勝郡	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	一一、八〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	六〇、八〇〇
一組合	一五六、二五〇	三二二、五〇〇	三七五、〇〇〇	四二五、〇〇〇	二一八、七一〇	二一八、七一〇	二一八、七一〇	一、九〇〇、〇〇〇
合計	五八、一六〇	七二、五〇〇	一〇四、三〇〇	一〇九、三〇〇	七〇、五〇〇	七五、〇〇〇	九九、八五〇	五八九、六一〇
一組合当	二〇三、三六〇	二五三、五〇〇	三六四、二〇〇	三八二、一六〇	二四六、五〇〇	二六二、二〇〇	三四九、一〇〇	二、〇六一、五七〇

第六表 秋田県信連資金計画書

秋田県信連作成(単位 千円)

項 目	二五年三月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	合 計
単 信 連 農 貯 金	四五二、〇五〇	三六四、〇五〇	二九六、〇五〇	二四四、〇五〇	一九二、〇五〇	一六六、〇五〇	一四〇、〇五〇	一、三三六、九〇〇
信 連 貯 金	四五二、〇五〇	三六四、〇五〇	二九六、〇五〇	二四四、〇五〇	一九二、〇五〇	一六六、〇五〇	一四〇、〇五〇	一、三三六、九〇〇
信 連 預 り 金	二三四、九四〇	一八六、一四〇	一五七、一四〇	一五五、〇〇〇	一五五、〇〇〇	一五五、〇〇〇	一五五、〇〇〇	一、三三六、九〇〇
(一) 貯 金 受 入	五五四、七二〇	三三二、七二〇	一七九、三六〇	一〇六、七四〇	六八、二二〇	六三、三三〇	四四、三七〇	一、三三六、九〇〇
(イ) 販 売 代 金 振 替	(一八二、三三〇)	(三三、七二〇)	(二二、三八〇)	(二、七四〇)	(三六、一二〇)	(四六、二二〇)	(四〇、三七〇)	(三七五、五五〇)
(ロ) 農 業 共 済 金	(三三〇、〇〇〇)	—	—	—	—	—	—	(三三〇、〇〇〇)
(ハ) 農 手 貸 付 振 替	(三三三、三六〇)	(二〇八、〇〇〇)	(一五六、〇〇〇)	(八五、〇〇〇)	(二八、〇〇〇)	(一七、〇〇〇)	(五、〇〇〇)	(七二二、三六〇)
(ニ) 農 手 割 引	三三三、〇〇〇	三三八、〇〇〇	一八五、〇〇〇	八五、〇〇〇	三三、〇〇〇	一七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
(三) 預 金 引 出	六五三、二五〇	三五、一七〇	二五七、三八〇	一〇九、八八〇	七、一二〇	六三、三三〇	五、三七〇	一、五二九、六九〇
(イ) 繰 越 預 金	(一〇八、二二〇)	(五、八〇〇)	(四九、〇〇〇)	(三、一四〇)	—	—	—	(二四、一四〇)
(ロ) 新 規 預 金	(五四四、三三〇)	(三六、二七〇)	(二〇八、三八〇)	(一〇六、七四〇)	(七、一二〇)	(三、〇〇〇)	(五、三七〇)	(一、三〇五、五五〇)
(四) 貸 出 金 回 収	一三、〇〇〇	二〇、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	六〇、〇〇〇
(イ) 各 連 合 会	(八、〇〇〇)	(一五、〇〇〇)	(四、〇〇〇)	(八、〇〇〇)	(三、〇〇〇)	(三、〇〇〇)	(三、〇〇〇)	(四四、〇〇〇)
(ロ) 単 位 農 会	(五、〇〇〇)	(五、〇〇〇)	(四、〇〇〇)	(二、〇〇〇)	—	—	—	(一六、〇〇〇)
(四) 前 渡 金 回 収	六四、二〇〇	—	—	—	—	—	—	六四、二〇〇
(ロ) 農 手 回 収	三、九三〇	—	—	—	—	—	—	三、九三〇
(ロ) 出 資 金 増 加	五、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一九、〇〇〇
(ロ) 県 農 未 収 回 計	一、五七二、〇五〇	八七、四四〇	六三、七六〇	三三、六二〇	一七五、二四〇	一四八、四四〇	一〇、七四〇	三、七六〇、三九〇
運								
(一) 新 規 預 金	五九八、二四〇	二七六、七二〇	三三八、三八〇	一〇六、七四〇	七、一二〇	六三、三三〇	五〇、三七〇	一、三三六、九〇〇
(イ) 販 売 代 金 振 替	(一八二、三三〇)	(三三、七二〇)	(二二、三八〇)	(二、七四〇)	(三六、一二〇)	(四六、二二〇)	(四〇、三七〇)	(三七五、五五〇)
(ロ) 農 業 共 済 金	(三三〇、〇〇〇)	—	—	—	—	—	—	(三三〇、〇〇〇)
(ハ) 農 手 割 引 振 替	(三三三、三六〇)	(二〇八、〇〇〇)	(一五六、〇〇〇)	(八五、〇〇〇)	(二八、〇〇〇)	(一七、〇〇〇)	(五、〇〇〇)	(七二二、三六〇)
(ニ) 農 手 通 預 金	(二四、八九〇)	—	—	—	—	—	—	(二四、八九〇)
(三) 前 渡 金 返 付	一一、六二〇	—	—	—	—	—	—	一一、六二〇
(四) 固 定 資 産	一、二二〇	三、八〇〇	—	—	—	—	—	四、九二〇

用	差 引 過 (不足)				
	(甲) 有価証券	(乙) 貯金	(丙) 肥料	(丁) 貸付金回収振替	(戊) 其他
合 計	四一、五四〇	六六、一〇〇	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
(一) 貯金	—	—	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
(二) 肥料	—	—	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
(三) 貸付金回収振替	—	—	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
(四) 其他	—	—	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
合 計	四一、五四〇	六六、一〇〇	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
差 引 過 (不足)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)	(一〇〇、〇〇〇)
助 借 合 他	—	—	—	—	—

一応結果からみれば三十七億六千万円の調達に対して三十九億五百万円の運用で差引一億四千四百八十六万円の不足となりこれを中金から無担保で借入を仰ぐ事になっている。然しながらこの中には単協の要求する無担保貸出の六億円は殆んど考慮に入れてないのであり、この一億四千四百八十六万円の無担保借入額は更に増大する可能性が充分ある。

各項につき検討すれば種々不明不備な点が出て来る。然し信聯に於てすら斯る程度のものしか作成されない処に問題があるのではなからうか。

更に問題点を一つ指摘すれば調達面の貸出金の回収である。これは県購聯を始め各聯合会に対するものが相当である。

特に購聯は、その内容が甚だ悪いのでこれに対する貸出約七千万円の回収は相当困難と思われる。然し一方単協からの無担保貸出要求額にも相当の幅のある事は既に前項に於てみた処であるので、この計画は調達運用共相当動くであろう。

第三節 県購買農業協同組合聯合会

全国の購買聯合会が報奨物資その他の購買品を抱え、資金の固定を来し、その振出した手形の不渡は既に三月末十数億円に達しているがこの勢は全国的に愈々激しくなりつつある。全国の各県購聯は総計五十億円以上の借入金を行つてゐるにも拘らず、損失合計は三十億円を下らないであろうと見られ之が組合金融機関、メーカー、地銀に及ぼす影響は極めて重大とみられている。即ち農家はその

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

金詰りのため購入したものも払えず又不良品は買取らないため購聯は未収金、ストックの増大となりメーカーに対し巨額の不払を行うに至つてゐる。然もこのメーカーの多くが中小企業で、之等のメーカーに対しても甚だ重圧となり、農業の危機が中小企業の危機と結び合つてゐることを知ることが出来る。かかる一時的傾向の裡に於て秋田の購聯もその典型的な様相を示している。県購聯の試算表は第七表に明示してある如きものである。

第七表 秋田県購買農業協同組合連合会試算表

昭二五・二・二四現在 (単位 円)

借		貸	
科 目	金 額	科 目	金 額
出 資 金	一七、三〇〇、〇〇〇	未払込出資金	八、七二、八六、〇〇〇
関係機関未払込	一、六五〇、〇〇〇	固定資産勘定	一、〇三、五六、〇〇〇
全 購 連	一、四四〇、〇〇〇	備 品	四、五〇〇、〇〇〇
全 輸 連	二、五〇〇、〇〇〇	関係機関出資金	五、二、五六、〇〇〇
		農林中央金庫	二、六五〇、〇〇〇
		県 信 連	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
		県 販 連	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
			一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

計	一三三、九七六	一〇〇・〇〇%	損 越	三三八	〇・一六%
			失 勘	四四、五二六	一九・一九%
			計	一三三、九七六	一〇〇・〇〇%

この内容を検討してみるに

(イ) 調達面では借入金と未払代金が全体の八三%を占めている。借入金の内訳は県信聯から六千八百万円、中金三千二百万円である。又この未払金の内六千九百万円は購買手形である。

先ずこの未払代金及び六千九百万円の購買手形の内訳は次の如くである。

(単位 千円)

種 別	未 払 購 買 代 金		購 買 手 形		総 計
	他 店	全 購 連	銀行手形	全購連手形	
資 材	一、九〇四	一、四八六	一、九六六	六、六六一	二、三三七
衣 料 品	六、一七八	二、四四六	三、五九八	〇	四、五三二
魚 粕	五、〇一四	〇	一、七八八	〇	六、八〇三
農 機 具	八六三	二、四四五	六二〇	三、〇五九	二五、九七七
其 他	五七	〇	〇	〇	五七
計	一四、〇一六 (内報奨物資 二、九四七)	六、三六七 (内報奨物資 一、九五二)	四〇、三三三 (内報奨物資 二七、二五)	二九、〇一〇	八九、七五五 (三三、〇三)

右の購買手形のうち、二月末現在既に七百五十万円が不渡になつてゐる。又残りの六千二百万円の購買手形も三月末日迄に大概期日が到来しその殆んどが不渡になる可能性が強い。更に四千万円の銀行手形については商人が銀行より割引を受けたものもかなり存する如くである。従つてその殆んどが不渡となるとすれば銀行にも影響が及ぶこととなる。

かかる事態に当面し購聯としては在庫品の返却をメーカーに求める一方農民に対する未回収に力を入れている。然しメーカーとしては価格の引下には応

最近の農村経済、農業協同組合の窮迫について

ずるとしても(六割、七割の値引でもよいとするものすらある)引取は拒絶しており、農民も窮乏しており未収金の取立は全く容易ではない。

(ロ) 一方運用面では在庫品と未収代金が全体の約七〇%を占めている。未収代金一億一千万円は単協に対するものであるが、単位組合は又この内の相当部分が農民に対する未収になつてゐる。農民からの未収以外は単協で在庫になつてゐるのである。従つて県信聯の未収金の回収は容易でないといわざるをえない。

なお未収金の内七千万円程度は報奨物資の販売代金である。

次に在庫品の内容をみるにそれは次の如くである。

一月末在庫高

(単位 千円)

品 目	金 額	割 合
報 奨 用 魚 粕	五、〇〇〇	六・五%
衣 料 品	一三、〇〇〇	三一%
衣 料	一〇、〇〇〇	一二・三%
農 機 具	一六、〇〇〇	二一・一%
一 般 資 料	二一、〇〇〇	二七・二%
輸 送 材 料	一、〇〇〇	一・五%
計	七六、〇〇〇	一〇〇%

之によれば報奨用の衣料が最大である。そのうち銘仙、作業衣、放出綿等が最も多く繊維品の価格下落とその品質不良の点を考え合わせればこの売却は甚だ困難とみなければならぬ。

以上簡単に聯合会の資産内容をみたが、その悪化は甚しく、この結果損失勘定四千四百万円を出すと云う極度の混乱振りである。これに対して購聯としては未

収金の内五千万円の回収在庫品を相当程度損失を生じて六月迄に約四千五百万円売却する事によつて対処せんとしている。然し、現在の債務だけでも中金三千二百万円、信聯六千八百万円、全購聯二千八百万円、県農一千万円、一般未払一千百万円、銀行手形四千万円、合計一億九千万円の膨大な額に達しており、手のほどこし様がない状態にある。

斯くの如き混乱を来した原因は、購買品仕入、特に大部分は報奨物資の仕入に対して、これが、単協から引き取りが少く、又単協に売渡したのも未収になつている点に求められるであらう。而してこれは在庫品にて判明する如くその相当部分が衣料品である点(これは、全国的にみられる例であらう)が報奨物資の品質粗悪に加え市場価格の値下りで相当損をして価格を下げねば今や買取り手がない処に直接の原因があるとしても、報奨物資制度自体農民の実情に應ずる如くに行われなかつた所に最大の問題があると云えよう。

かくて種々の点から報奨物資制度が批判されるに至つてゐるが、この製造業者の多くが中小企業者達であることは、問題を単に農業部に止めていないことは注目すべきである。而も先きに一寸ふれた如く全国では数十億に上る欠損と借入金を行つている点而も借入金は主として各信聯であり、この損失の尻も結局組合金融に來るとすれば組合金融機関は購聯の段階からくずれないとは何人も断言出来ないと云えよう。

第四節 農業協同組合窮乏の原因、現状、影響

以上に於て、単位農業協同組合、県信用農業協同組合聯合会、県購買農業協同組合聯合会の実情を考察したが以下に於て問題を要約してみよう。

(1) 組合窮乏の原因

(イ) 組合設立時の経済的悪条件

インフレの最中に、而も農業がインフレにより収奪過程に入つてから設立された為、その基盤は甚だ悪く、弱小な出資金で出発した。而も経験と能力の乏しい指導者達には誘惑も多過ぎた。即ち農業会から引継いだ多くの購買品はインフレ期には魅力であり、購買事業による儲け手段を覚えて了つた。

(ロ) 新らしい自主的民主的な線によつて設立された組合を經營する人間自体、

及び組合員各人が、戦後急変する社会経済状態の下に於ける組合の在り方に対して余りにもかけ離れた社会経済意識と同様の生活態度、智的水準(言葉の上の啓蒙はあつても本質的には何等変化してない)にあつた事。この欠陥は次の如き点に端的に表れるに至つてゐる。

- ① 組合員の無頓着な掛買い、資金計画の欠如。
- ② 組合の放漫經營、即ち事業資金、固定資産の著増。
- ③ 組合員の認識不足により出資金は余り増大しない。
- (ハ) 急変する社会経済状況の中に特に農業経済の窮乏が進行する時、農業会時代と異り何等の権力及び保護を持たなかつた為組合經營が至難になつたと。

(ニ) 農業政策の不備

設立当初から単位組合はその担当すべき金融の面から遠からず崩れる事は既に予期せられていたのである。それにも拘らず設立迄にみられた鳴物入りの力の入れ方はこれが一度設立をみた時には全く止み育成の面が少なかつた。例へば報奨物資制度にしる組合の經營を不健全にする事は自明の理であつた。又米価の如き農民にとつて重要なものゝ決定が甚だしく遅れた事等は、いかによい条件にあつても自己の生活設計すら出来ぬ農民にとつて甚だしい混乱を与える。斯くの如く設立時組合の保護育成の方向へ農業政策がとられなかつた。

(2) 組合の現状

今やドツジラインから来る国民経済の苦悶の皺寄せが、中小企業農業に深刻に押し寄せて來てゐるが、これに対して協同組合は窮乏する農村経済の防波堤になる処でなく逆に協同組合自体の破綻が先きに來て了つた。既に全国では相当数の組合が金融業務停止の段階に來つた(現在預金払戻制限をやつてゐる組合は全国で約百以上とみられてゐる)。農民生活の経済的破綻と云う事はその經營が全く赤字状態になつても容易に起り得るものではない。農民は食糧を殆んど自給しており、ギリギリの生活の基盤は持つてゐるからである。斯くなれば協同組合とその組織員である農民の間の乖離は愈々激しくならざるを得

ないであろう。既に米の登録商の相当の進出が見られている時、更に肥料公団の廃止により肥料商の進出が当然考えられる現在、肥料商と組合の肥料取扱量は八八対一二であるがこの趨勢の逆転すら考えられる。農民と離れ米と肥料を扱わない協同組合、思うだにみぢめである。

愈々窮乏する農村経済を前にしてその窮乏より更に速い速度で破局化に向う農業協同組合は何処へ行くか、今や組合は反省、再検討、再出発すべき時に遭遇したと見ねばならない。

然らずんば、大きな任務と期待をもつて発足した協同組合は全くの龍頭蛇尾に終る可能性強しと見ねばならない。

(3) 組合窮乏の影響

特に中小企業の危機が強くなつて来ている時農業と中小企業両者の危機は相関聯している以上、協同組合の金融業務不能の如き事態が全国的になれば地方銀行にも何等かの波及が起つて来るであろう。従つて之が解決、再建の途は早急に考慮されねばならぬ問題と云わねばならない。

而も外国食糧の流入増大を契機として日本農業を根本的に揺るがす如き事態になり、農業政策の抜本的対策の要が急がれている時期にある。農協の問題も当然之等日本農業の在り方と離れて論ずる事は出来ない事は云う迄もない。

然も過去の如く日本農業が国民経済中に於て幼虫的存在であつた時と異り、工業は縮小し外国貿易も極度に萎縮した今日に於て農業の重要さは過去の比でなく、今や日本農業の問題はその国民経済全般の問題に続くものである以上、農村経済、農協組の危機の問題の根は誠に深く大きい処に問題の所在があると云わねばならない。

第五章 採らるべき対策

農村経済の窮乏、協同組合の窮乏は歸する処、現在の日本の国民経済の苦悶の嫩寄せが農業に行われている事と、外国食糧の流入の突如とした而も予想せざる多量の流入による重圧の二つと見ねばならない。而も過去と異り現下我が国民経済内に於て国内市場としての農村の重要性を考える時は之が窮乏は誠に重大な問題であり国民経済全体が縮小して行く事は火を見るより明かである。従つて根

最近の農村経済、農業協同組合の窮乏について

本的な打開策としては、農村にも購買力をもたせると共に一方農業生産の発展をもたらす如き土地改良等を可能ならしむる如き長期資金の投入が絶対に必要である事は云う迄もない。然しながらドツジラインを至上命令として忠実に履行している以上それは容易に望み得る事ではない。然し、若し今年度の千三百億円に近い債務償還の内百五十億円を食管会計に入れる事が許されるならば、米価は石当り五百円上昇する事になる。そして東北の米作農民等は一戸当り一万円近くの収入増になつて来る。更に百億円を土地改良、災害復旧等に当て得るとすれば、又、同程度を基礎産業の方に廻すとすれば、国民経済全体としての循環が行われ相当明るくなるのではなからうか。これなくしては決して根本的には日本農業の衰亡は救えるものではなからう。然しこれは早急に実現出来ない事は明らかである以上金融面から農業危機を防止する面は非常に限定せられて来るが、先ず以て日本農業を破局化させない如き当面の政策が考えられねばならない。而して協同組合は新しい農業の基盤としてある為に現在の協同組合を中心として取らるべき対策に限定して考えてみる。

第一節 単位組合の整理及び監督、育成の強化

現在既に手のほどし様の無い組合に対して、それが一村に二つ以上ある場合には整理統合を図り、之を強化する。一つである場合には協組のない村が生ずる事は許されない以上出来るだけ面倒をみる事。

(1) 極度の混乱にあるものに対しては一時信用業務の整理が出来るまで、信聯により信用業務を代行せしめる。之が実現出来ねばその程度の力を入れて単協の信用業務に対して整理、監督する。

(2) 単協の事業資金、貸出額を制限する事

自主的にまかせられるだけの能力が経営者になく以上、細かい規定をつくる、例えば事業資金、貸出金の合計は、出資金、預金最低残高(前年度の実績)固定資産の合計の金額以内にする等の如く或る程度金融業務に対しては規定をつくり干渉する事。

(3) 農業手形の取扱の問題

単位組合は組合員との馴れ合いで種々、悪用をみている現状に考え、単位組

合に扱わせない事が望ましいがそれが困難なれば強度の監督をする。

(4) 単位組合の資金計画の樹立

現在は資金計画も立てられていないが、かかることを改める。当県についてみれば信聯の支所を活用すれば(各支所が二十——三十の単協を受持つこととなる)十分可能と考えられる。

(5) 政治的原因で内容の悪化した組合は閉鎖さす事

金融業務を営む単協が政治問題に影響される事は最も好ましくない。従つて全く政治的な問題による不良組合はそれが一村一つであつても閉鎖して、新たに設立すべきである。

(6) 出資金を増加し農民との親近性を強める事

現在、一口当り出資額は平均六百円である。昭和十二年は四十三円、この時の米価が三十二円である事を考えても判明する様に、出資金が余りにも貧弱である。これを増加させ農民をして組合は自分たちのものであると云う意識をもたせる。

(7) 経営能力の低い組合幹部に対しては再教育を施すか、有能な人材を入れるように図ること。

第二節 系統機關の機構の問題

(1) 現在中金支所、出張所、信聯、信聯支所、単協の段階的機構にあるが、信聯に責任をもたすならば徹底的に責任をもつてやらせる。又信聯が不信任な場合には中金の出張所と各郡に一つ位駐在員を置き督励する。即ち、中金、単協の二段制か中金、信聯、単協の三段制かの検討、尤も斯る複雑な重複した機構はそれ等が総て農民の出資金により設立されているのである以上逆に農民の負担を多くして益にならない実状にないとも云えない。従つて機構を簡素化し出来る限り能率的にすべきである。

(2) 特に県段階に、信聯以外に、購聯、販聯、生産聯(指導聯)、厚生聯の如く五つもあるのである。而も単協の組合長が之等の聯合会の役員になつてゐる場合が多く、監督のしにくい点もあるが、更に政治的な關係の生ずる場合が少なくない。多くが寄生的存在に過ぎないものであると考えられる。生産聯、厚生聯等

は不要とさえ考えられる。

會ての産業組合時代の如く、信聯、購聯、販聯の三本立てで充分と考えられる。

(3) 更に単位協同組合に信用業務をやらすべきや否やの再検討

出来得れば単協をして信聯の窓口的存在にする事が望ましい。即ち郵便局の如く貯金の受け一方にして貸出その他信用業務は信聯にさせる。然る時は台帳をもたぬ以上預金の秘密性保持の關係から預金は今迄より遙に集ると考えられる。

第三節 農民の啓蒙、自覚、意識高揚の問題

既に述べた如く農民の社会経済意識が現状の如くであつては何にもならない。これを高めることが以上の如き対策の根本である。従つて之が啓蒙は最も肝要と云わねばならぬ。もとより個々の農民総てに対して之を要求する事は不可能であるので村で一人か二人、即ち組合の経営者幹部には国際状況、国民経済、農業の置かれている位置は分り、而も組合経理、特に金融業務についてもよく分る「人」を養成する事が先ず肝要である。

以上要するに現在全く危機にある協同組合を中心としてその対策を述べてみた。

第四節 むすび

現在安定化に向う国民経済の苦悩が農村、中小企業に皺寄せされて国民経済の混乱がせまりつつある時、更に農業に対しては外国食糧の非常な流入が起りつつあり、国民経済内に於ける農業の根本的な政策の転換すら行わざるを得ない如き事態に立ち到つた。策よろしきを得ねば日本農業は徹底的な恐慌状態にならざるを得ず、ひいては国民経済全体の恐慌へと進む可能性なしとしない。

之に対して、日本農業の防波堤としてあるべき協同組合が既にみた様な混乱にある事は国民経済上海にゆゆしき問題である。

従つて、問題は複雑にして深刻なものであるが、先ず農業に関しては一応協同組合を以上述べた如き線に沿つて指導、監督、整理の上之が強化を急ぐ事が国民経済上真に急務と云わねばならぬ。